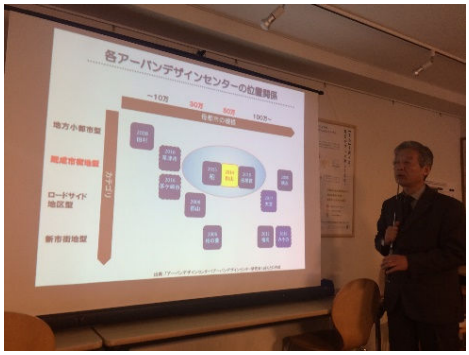
松山アーバンデザインセンター現地視察を経て

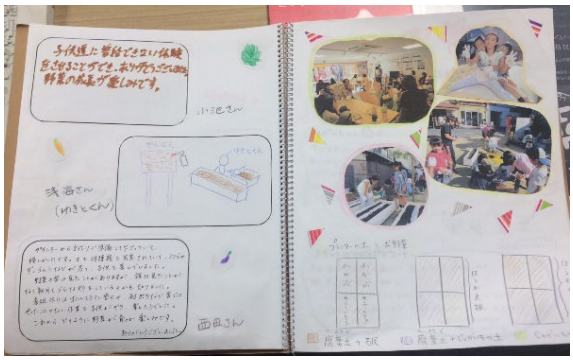
松山市に赴き、アーバンデザインセンターを訪問。アーバンデザインセンターってなんだ？聞いたこともないという方が多いと思います。視察を行ったアーバンデザインセンター松山のHPでは、次のように説明をしています。「松山アーバンデザインセンターは、「公・民・学」が連携するまちづくり拠点です。現地・現場のまちづくりを推進するため、中心市街地に拠点施設を構え、隣接して設置した憩いと賑わいの空間である「みんなのひろば」と「もぶるテラス」を運営しながら、将来ビジョンの検討や都市空間のデザインマネジメント等のハード面、まちづくりの担い手育成や地域デザインプログラム等のソフト面、双方のアプローチから、総合的なまちづくりに取り組んでいます。」簡単に言うと、公・民・学が連携して街づくりを進める仕組み。2006年開設の柏の葉アーバンデザインセンターを皮切りに、各地でこの方式を採用した街づくりが進めてきました。ただ、その手法は新たに街を創る、言わば白紙キャンパスに街を描くといった街づくりのケースに多く活用されてきました。新たな街づくりのケースでは、その手法の有用性はとても高く評価されてきた経緯もあります。ところが板橋の街づくりを考えると、何もない空地に街づくりを描くことは想定されず、既にある街をリ・デザイン、再配置する街づくりとなります。そこで疑問が出てきます。果たしてこのアーバンデザインセンターの手法は板橋の街づくりに有効に機能するのか？その答えとヒントを求めて、松山まで話を聞きに赴きました。というのも、松山は2014年か

交流や拠点のスペース「もぶるテラス」

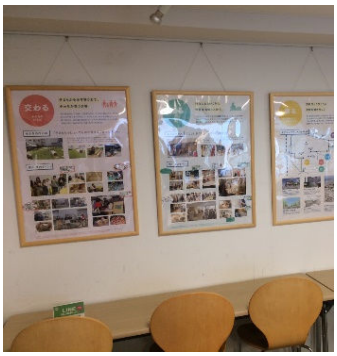
みんなの広場ではイベントや取り組みが活発に行われる



松山は既存市街地開発型で板橋と類似



温かみが伝わる来場者が綴る交流日記



機能を分かりやすく表示

から既存の街の再開発にアーバンデザインセンターを採用しており、2016年にはグッドデザイン賞も受賞しており、板橋にとって参考となると考えたからです。なると考えたからです。

一歩一歩の積み重ね その実践を繰り返す

松山アーバンデザインセンターの役割として、「賑わいの創出」「空間デザインマネジメント」「まちづくりの担い手育成」「情報発信」の４つを掲げています。賑わいの創出としては、子どもからお年寄りまでみんなが集い、交流し、休憩し、遊ぶことができる「みんなの広場」と「もぶるテラス」の運営、まちづくりの担い手育成としては、地元４大学生と社会人がまちづくりの企画から実践を行う「アーバンデザインセンタースクール」の活動が特徴的に映りました。元々、コインパーキングだった場所は、丘と土管だけが配置された何もないスペースに生まれ変わり、「みんなの広場」となりました。何もないということは、何でもできる。この発想のもと、地域の方やデザインスクールの学生などが、みんなの広場において、土日夜市、壁面映画会、移動動物園や手づくりプールなど、盛り沢山のイベントが展開されています。一つひとつの活動はとてもエネルギッシュで魅力が溢れています。ただ、ここで少しの疑問が頭をよぎります。いずれの活動も「ささやかなことでも良い、松山市が魅力的で誇りある街に一歩一歩近づくことに貢献すること」を目指しており、当初私どもがアーバンデザインセンターに抱いていた街を白紙からダイナミックに描く有機的な複合体の活動・まちづくりといったイメージとは違うということ。もしかすると既存の街のリニューアルや再開発においては、アーバンデザインセンターが担う役割はこうした一歩一歩、ささやかなことの積み重ねの実践なのかもしれません。こうした現実的なまちづくりを考えると、板橋区の現状とシンクロする部分が透けて見えます。

板橋区において、平成28年10月に都内初となる「アーバンデザインセンター高島平（UDCTak）」が設立され、高島平地域の新たなまちづくりが本格始動しました。この方式をどう活かし、街の未来を創っていくのか。松山に実際の現場に足を運び、現場で汗を流している人からの話を聞くことで、今まで見ていなかったことが見えてきたように感じます。一歩一歩、板橋区でもまちづくりの進んでいくように後押しをしていきたい。